

静岡県文化プログラム拠点「七 Lab」オープン!

オープニング記念トークイベント

「地域とアートの共鳴が描く静岡の未来」

2017年7月15日(土)
開場 午後1時30分
開演 午後2時00分



パネリスト

若林朋子、古橋敬一

谷津倉龍三、本原令子、松本知子

プロジェクトコーディネーター
立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授
港まわづくり協議会事務局次長

静岡県文化プログラムモデルプログラム(2017年度)実施団体から

富士の山ビエンナーレ実行委員長 登員会議代表
美術家(陶芸家)

浜松市根洗学園園長



静岡県文化プログラムの拠点「七 Lab」

オープニング記念トークイベント

「地域とアートの共鳴が描く静岡の未来」

アートと言えば、美術館や劇場、コンサートホールに行く、鑑賞する。そんなイメージを持たれる方が多いのかもしれませんが。けれども「アート」と「地域」が連動し、共鳴することで、静岡にさまざまな「未来」を生みだしていくことができるはずですよ。

経済、観光、まちづくり、医療、福祉、科学などといった地域の多様な日常とアートが交わり、いろいろな人を巻き込みながら、新たな出会い、発見、気付き、展望を生みだすムーブメント。そんな地域とアートの関係づくりを目指し、静岡県の文化プログラムは展開していきます。

多種多様な文化プログラムをサポートするため、このたび事務局とオープンスペースを兼ね備えた拠点「七 Lab.」を静岡市内に設け、そのオープニングとして、トークイベントを開催することといたしました。地域の人々が主体となり、地域とアートの共鳴が拓く「未来」を、専門家のお話や事例を交え、県内各地で活動するみなさんとともにひも解いてみます。

パネリスト

若林 朋子 (プロジェクト・コーディネーター/立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授)

古橋 敬一 (港まちづくり協議会事務局次長)

静岡県文化プログラムモデルプログラム (2016年度) 実施団体から

谷津 倉龍三 (富士の山ビエンナーレ実行委員長/ (株)ヤツクラ代表取締役)

本原 令子 (登呂会議代表/ 美術家 [陶芸家])

松本 知子 (浜松市根洗学園園長)

2017年7月15日(土) 開場：午後1時30分 / 開演：午後2時00分
(午後3時30分トーク終了予定/ 終了後レセプションあり)

会場：静岡県文化プログラム拠点「七 Lab. (ナナラボ)」

定員：50名 入場無料 (事前申込制) ※申込が定員を越えた場合は、抽選により入場の可否を御連絡いたします。

主催：静岡県文化プログラム推進委員会

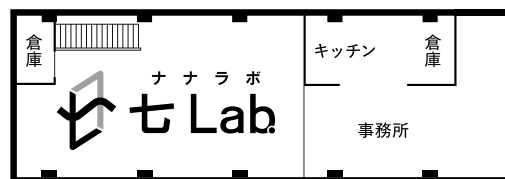
お申込み方法

氏名・電話番号・住所・メールアドレス (お持ちの場合) を明記の上、下記いずれかの方法でお申込みください。 7月10日(月) 必着

○ハガキで郵送いただく場合 ☎ 〒420-0035 静岡市葵区七間町5-8 ミライエ七間町2F

静岡県文化プログラム推進委員会「7Lab.」担当

○FAXでお送りいただく場合 ☎ 054-273-8183 ○Eメールでお送りいただく場合 ☎ info@shizuoka-ac.org



「七 Lab.」は、地域とアートの「創造と実験」のオープンスペースです。みんなと一緒にアイデアを考えたり、トークをしたり、ワークショップやミニコンサート、展示など文化の多目的スペースとして運営していきます。



静岡県文化プログラム (ブンプロ) は、2020年のオリンピック・パラリンピックに、文化・芸術で参画していくプロジェクトです。「地域とアートが共鳴する」をテーマに、ダンス、演劇、音楽、美術、伝統芸能、生活文化などのさまざまなジャンル、さらには、スポーツや福祉、地域づくりとの協働など、未来につながる文化の力が、「静岡の力」となるような新しい発想のプログラムを応援します。



静岡県文化プログラム拠点「七 Lab.」

静岡市葵区七間町5-8 ミライエ七間町2F

お問合せ先: info@shizuoka-ac.org

または 電話054-273-8181 (平日9:00-18:00のみ)

URL: http://shizuoka-ac.org

Facebook: 静岡県文化プログラム Twitter: @shizuoka_arts



若林 朋子 (わかばやしともこ)

プロジェクト・コーディネーター/立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授
デザイン会社勤務を経て、英国で文化政策とアートマネジメントを学んだのち、1999~2013年公益社団法人企業メセナ協議会に勤務。プログラム・オフィサーとして企業が行う文化活動の推進と芸術支援の環境整備に従事。2013年よりフリーランスとなり、各種事業や企画立案のコーディネーター、執筆、調査研究、評価等に取り組む。横浜市創造界隈形成推進委員会、和光市指定管理者事業評価、大阪府市文化振興会議、各委員。NPO法人理事 (芸術家と子どもたち、JCDN、アートプラットフォーム、芸術公社)、監事 (ON-PAM、音まち計画、アーツエンブレイス、TPAM)、アートによる復興支援ARTS for HOPE運営委員。



古橋 敬一 (ふるはしけいいち)

1976年、愛知県生まれ。港まちづくり協議会事務局次長。名古屋学院大学、愛知淑徳大学等にて非常勤講師。博士 (経営学)。学部時代にアラスカへ留学。アラスカ原住民族の文化再生運動に触れ大きな影響を受ける。帰国後、大学院へ進学すると共に、商店街の活性化まちづくり、愛知万博におけるNGO/NPO出展プロジェクト、国内および東南アジアをフィールドにするワークキャンプのコーディネーター等の多岐にわたる活動に従事。多忙かつ充実した青春時代を過ごす。人と社会とその関係に関心がある。2008年より港まちづくり協議会事務局次長として、名古屋港区西築地エリアのまちづくり活動を推進している。



谷津 倉龍三 (富士の山ビエンナーレ)



本原 令子 (登呂会議)



松本 知子 (浜松市根洗学園)

静岡県文化プログラムモデルプログラム (2016年度) 実施団体から